
カウンタ 越しの恋人

高橋 美羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

カウンタ 越しの恋人

【Nコード】

N1697D

【作者名】

高橋 美羽

【あらすじ】

以前書いたBanktellerの続編です。

薄暗い、Barの店内。

しっとりとした、ジャズが流れている。

フロアには、円柱の大きな水槽があり、中には様々な種類の熱帯魚が泳いでいる。

水槽を照らしている青い光と光の間を泳ぐ熱帯魚が、この空間を、なんとも言えない幻想的な気分になさせてくれる。

まるで自分達もアクアブルの海の中を泳いでいる気分だ。

カウンタには、俺と如月きんづきさんの2人だけ…

いつも飲み会といえば、学生や、くたびれたオヤジでいっぱい居酒屋で飲む事が多い俺にとって、こんな素敵なBarで飲むなんて、たぶん初めてなんじゃないか？

今日は、お互いの気持ち解かってからの初めてのデート…

銀行ではカウンタ越しに毎日会えるけど、それとはまた違った感じがした。

こうして如月さんと並んで座って、ゆっくりと見つめ合うのも、

もちろん今日が初めてだ。

久しぶりの恋愛は、嬉しすぎて俺は妙に舞い上がっている。

『ここ…すごく素敵なお店ですね…』

静かで、ゆっくりと話ができるようにと、如月さんが予約してくれたのだ。

『そう言ってもらえると嬉しいですよ…このお店、実は私が設計したんですよ。泉さんいずみに、気に入ってもらえて良かったです』

お酒の弱そうな如月は、口を付けたカクテルが効いているのか、上気している頬は、ほんのりと赤い。

いつもは、さわやかな笑顔で物腰柔らかく、大人の雰囲気漂う「お客様」としての如月さんしか知らなかったから、こういう可愛い一面の如月さんを知る事ができて、嬉しい。

『…如月さんと恋人同士になれるなんて…俺、本当に嬉しいんですよ。うちの支店でも如月さんは、誰が如月さんの番号カードを窓口で引くか…って事で、すごいバトルしてますから…結構競争率高いんですよ』

『…そんな事、全然気が付きませんでした。…ただ私は銀行に行って、呼ばれた窓口が泉さんだったらいいな…って毎日思ってたまし

たから…』

お酒の力を借りて言ったとはいえ恥ずかしくなったのか、如月さんは、さらに顔を赤くしてカクテルに飾られているチェリを指で軽く突つきながら続けた。

『それに私の方こそ…こうして泉さんと一緒にいられるなんて…私が泉さんに気持ちを伝えたところで、きつと引かれると思ってましたから…同じ気持ちだったと知って、どんなに私が嬉しかったか…泉さん、わかりますか？』

如月さんの俺を見つめる潤んだ眼差しに、吸い込まれてしまいそうだ。

ああ…そんな目で俺を見つめないで下さい。

ヤバイぞ俺……

今日、このまま理性保てる自信なんてないです…

如月さんと付き合ってる事が窓口のお姉様方にバレてしまった時には、支店の女子行員全員を敵に回す事になるだろう。

でも、そんな事構わない。俺の隣には、こんなに可愛い、素敵な恋人がいる…

じつと見つめる如月さんの瞳が、キスして欲しいとおねだりして
いるようだったから、唇に軽くキスをした。

如月さんの甘い唇が、もっと…と、おねだりするように俺の中に
入ってきた。

如月さんの「おねだり」の上手さに、すっかり煽られっぱなしの
俺…

2人の長い夜は、まだ始まったばかりだ……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1697d/>

カウンタ 越しの恋人

2010年10月26日13時25分発行